

平成29年度東部地区学力向上推進協議会 (研修会)



平成29年6月6日(火)
春日部地方庁舎

平成29年6月6日(火)に春日部地方庁舎大会議室において、第1回東部地区学力向上推進協議会(研修会)を開催しました。学力向上に係る研究委嘱校の校長及び研究推進者、各市町教育委員会学力向上推進担当者、東部教育事務所担当者など、34名が参加しました。研究市町教育委員会、研究校が研究計画について発表した後、4つのグループに分かれて協議を行いました。また、義務教育指導課指導主事から、情報提供や助言が行われました。

1 目的

児童生徒の学力向上に資するため、各研究校及び関係各市町教育委員会の研究内容等について検討・情報交換を行うとともに、研究成果の普及を図る。

2 主な協議内容

「考え、話し合い、学び合う学習」普及のための実践協力校事業グループ

- 「学び合い」について、“活動あって学びなし”にならないようにしなければならない。そのためにはどうすればよいか。
- 振り返りの場面では、ねらいに対してどうだったのか、子供自身がまとめていくことが大切である。
- 子供が書いたもの、話したことの中に、教師が意図する言葉が含まれるようにすることが大切である。
- 動機付けの方法について、決められた課題がありきではなく、子供たちの思考に沿って進めることが大切である。また、「教科の本質」に迫るような課題にすることが大切である。

学力向上研究校指定事業グループ

- 書く活動を生かした事例としてどのようなものがあるか。
 - ・ 体験活動を通して学校応援団への手紙を書く取組を行った。
 - ・ 新聞を活用した取組を、月に1回程度行っている。
- 個人カルテの効果的な活用について
 - ・ カルテをもとに、定着が不十分な学習内容を教師が把握し、授業に生かすようにしている。
 - ・ 定着が不十分な内容について、補充プリント等で定着を図っている。
 - ・ 小中一貫教育の取組として、小学校で作成した個人カルテを、進学先の中学校へ情報提供のために送付している。
 - ・ 小学校で作成する個人カルテの内容について、中学校の先生方にも助言をもらいながら改善を図っている。

「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業グループ

- 算数に関する取組として、
 - ・算数日誌の作成を、市全体で取り組んでいる。
 - ・算数カルテを作成し、児童に対して、つまずきに応じた指導を行っている。
 - ・市内で優れた実践を集めて、事例集を作成している。
 - ・授業における、課題の明確化、適用問題の実施、振り返りの充実が大切である。
- 家庭学習について、
 - ・「ひとり学びノート」の取組を進めている。
- 「内牧計算道場」や「すくすくスクール」の取組により、基礎・基本の徹底を図っている。

「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業グループ

- 学習カルテの効果的な活用として、どのようなものがあるか。
 - ・身に付けさせたい問題に対する○×を記録し、それぞれの問題に対して練習問題を完備している。
 - ・算数カルテの取組は教師の負担が大きいため、工夫が必要である。
- 家庭学習の取組について、
 - ・中学校の定期テストに合わせて、同じ中学校区の小中学校で共通の「強化週間」を設定している。
 - ・校長会、市P連、家庭が連携し、家庭学習の習慣を確立するための冊子を作成し、配布している。
 - ・自主学習を促すには、学習の中身が大切であり、課題の与え方を工夫する必要がある。

3 情報提供・指導助言

指導者 義務教育指導課 下妻 淳志 指導主事

内 容

- 1 埼玉県学力・学習状況調査と全国学力・学習状況調査について
- 2 埼玉県学力・学習状況調査のデータ活用事業について
- 3 「復習シート」と「コバトン問題集」について
- 4 本年度の新規事業について
 - 「チーム埼玉」
学力向上パワーアップ事業
 - 「未来を生き抜く人財育成」
学力保障スクラム事業
- 5 授業改善の視点について
(「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて)

